

平成 27 年 11 月 25 日

各 位

本店所在地 山口県宇部市西本町二丁目 14 番 30 号
社 名 株式会社アルファクス・フード・システム
代 表 者 代表取締役社長 田村隆盛
(コード番号：3814)
問 合 せ 先 専務取締役管理部長 堀江 義光
電 話 番 号 03-5649-2100 (代表)
U R L <http://www.afs.co.jp/>

中期経営計画の提出について

当社は、平成28年9月期～平成30年9月期に係る中期経営計画を策定いたしましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、以下のとおり、当該中期経営計画について、投資者向け説明会を開催いたします。

開 催 日 時	平成 27 年 12 月 1 日 13:30～15:00
開 催 場 所	兜町平和ビル 1 階会議室 (小会議室)

【添付資料】

平成 28 年 9 月期～平成 30 年 9 月期 中期経営計画 (新規)

平成 28 年 9 月期～平成 30 年 9 月期 中期経営計画（新規）

平成 27 年 11 月 25 日

上場会社名：株式会社アルファクス・フード・システム

（URL <http://www.afs.co.jp/>）

代表社名 代表取締役社長 田村 隆盛

問合せ先 専務取締役管理部長 堀江 義光

電話番号 03-5649-2100

1 今後 3 ヶ年の中期経営計画

（1）当中期経営計画提出時点における平成 27 年 9 月期の総括

（計画の達成状況、成果及び今後の課題）

平成27年9月期におけるわが国経済は、政府による経済政策及び日銀の金融政策を背景に、輸出関連企業を中心に収益の改善がみられ、雇用状況も僅かながら、改善傾向にあります。

一方で当社の主要販売先である外食産業におきましては、一部の業態で個人消費に明るさが戻るなどの傾向が見られるものの、円安による輸入食材価格の高騰、人手不足を背景とした人件費の上昇傾向及び、コンビニエンスストアによるカフェ・中食市場の拡大などにより、外食市場での競合変化は大きく、当社の事業領域においては、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社は外食チェーンを中心に、従来からのASP／クラウド型サービスを核とした、トータルソリューションシステムを提供してまいりました。

また、2015年7月からは、パッケージ型の基幹業務システムである「飲食店経営管理システム(R)」をリリースし、規模に関係なく、外食のあらゆる業態店舗、中食である仕出し、弁当業及び給食事業者にご利用いただけるシステムを販売開始致しました。

その結果、売上高は、2,204,200千円（前事業年度比9.7%減）と堅調に推移しました。利益面に関しましては、営業利益63,089千円（前事業年度は営業損失273,684千円）、経常利益52,956千円（前事業年度は経常損失286,871千円）、当期純利益48,264千円（前事業年度は当期純損失288,464千円）の増益となりました。

売上高が減少したにも関わらず、増益という結果が得られたのは、平成26年9月期の売上構成は、粗利率が低い「テーブルショット」などのシステム機器の売上げが多かったことに対し、当事業年度は、ASPサービスの月額を着実な増加に加え、粗利率が高い「飲食店経営管理システム(R)」の販売が貢献したことによります。

事業別売上高は、次のとおりです。

	平成26年9月期	平成27年9月期	
	金額（千円）	金額（千円）	前年同期比（%）
A S Pサービス事業	1,075,659	996,759	92.7
システム機器事業	1,071,344	1,069,976	99.9
周辺サービス事業	294,686	137,464	46.6
合計	2,441,689	2,204,200	90.3

（2）中期経営計画の概要及び策定の背景

当社は、「食文化の発展に情報システムで貢献する」ことを事業ポリシーとして、外食業界に特化した「A S P型基幹業務システム」の提供から、POSシステムやオーダーエントリーシステム、テーブルオーダーシステムといった「システム機器」の販売及び周辺サービスの提供までをワンストップで行い、特に、食材ロス、人件費の無駄等のコントロールなどといった、経営コストのロスを徹底追求できるシステムを中心として、外食業界に提供しております。

現在、外食業界を取り巻く環境は、円安の影響や消費増税、人材不足などにより年々厳しさを増しており、よりローコストな経営が必要となっております。

このような状況の中、食材ロス管理を徹底追及できる当社の「A S P型基幹業務システム」は、これまでも、そして今後も外食企業のニーズに合致するものと考えており、収益性が高い「A S P型基幹業務システム」をベースに、より同業界に密着した、実用性の高いトータルシステムを、積極的に推進してまいりたいと考えております。

また、2015年7月より本格的に販売を開始した「飲食店経営管理システム(R)」と、これまでの「A S P型基幹業務システム」の総合統合版である「FOOD GENESIS」を融合した、比類ない“食”企業向け統合基幹業務システムを早期に完成させる予定であります。

また、その心臓部とも言える「データセンター」については、災害には世界で最も強いとされる、監視／事務所棟を含めたすべての電源を自社で生産／消費する、国内初の技術での、「オフグリッド型データセンター」として、早期の完成を目指しております。

完成後は、災害に強い、低コスト型の国内で最も強固な「データセンター」となり、今後この技術を用いた外食産業向けのエネルギーコスト削減を、当社コスト削減サービスカテゴリーの一貫として、提供する予定でございます。

また、システム機器においては、外食業界における人材不足と接客サービス向上を背景に、お客様が自ら注文を行うセルフオーダーシステム端末「当社製品名：テーブルショット」などの需要は高まっているものの、政府の円安等誘導により、生産コストが上昇傾向にあることから、仕入コストが上昇しており、粗利率が下がってきております。

今後は、部品単位の徹底した共通化などによる原価率の改善と、製品統合を視野に入れた開発体制で、引き続き多くの業種・業態において高いニーズがある製品の市場投入をしていきたいと考えております。

(3) 事業の進捗状況及び今後の見通しならびにその前提条件

平成28年9月期につきましては、政府による経済政策及び日銀の金融政策を背景に企業収益の一部に改善がみられたことや円安により輸出関連企業を中心に収益が改善している傾向が見られたものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動等により国内景気は依然として先行き不透明な状況が継続しています。

そのような環境の中で当社は、益々食材ロス／コスト管理に注力する“食”関連企業のすべての業種をターゲットとした「飲食店経営管理システム(R)」を中心に、これまでの「ASP型基幹業務システム」との融合環境での提供と、業界専用開発された店舗システム機器の提供で、双方を接続することで最もシナジー効果が得られる、当社ならではのトータル提案をさらに強化してまいります。

通期の業績見通しにつきましては、主として「飲食店経営管理システム(R)」の新規受注、店舗システム機器の新規及び追加受注を勘案し、売上高2,250,000千円（前期比一増）、営業利益440,000千円、経常利益420,000千円、当期純利益240,000千円を見込んでおります。

2 今期の業績予想及び今後の業績目標

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成27年9月期（実績）	2,204	63	52	48
平成28年9月期（予想）	2,250	440	420	240
平成29年9月期（目標）	2,350	480	450	260
平成30年9月期（目標）	2,500	500	470	270

事業別の売上高

① ASPサービス事業

(単位：百万円)

	平成27年9月期 (実績)	平成28年9月期 (予想)
ASPサービス事業	996	1,050

「飲食店経営管理システム(R)」新規受注の拡大により月額サービス料も順調に推移するものと想定しております。

② システム機器事業

(単位：百万円)

	平成27年9月期 (実績)	平成28年9月期 (予想)
システム機器事業	1,069	1,100

新規受注の順調な立ち上がりにより、併売品である機器販売に於いても順調に推移するものと想定しています。

以 上